学校教育目標

総合的な学校関係者評価

※文書表現で記入してください。

ふるさとを愛し 共に自己を磨き合い
未来を担う生徒の育成

複雑な社会の変化に学校教育も大きく影響を受けているように感じる。新しい社会の構築に向け、地域とともに「未来を創る生徒の育成」に努めてもらいたい。

自己評価 達成状況（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)	
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	B	・学校だよりや学年・学級通信、各種案内などを通して、学校での生徒の様子等の情報発信に心がけている。ホームページの更新が定期的実施できた。さらに積極的に情報発信を行い、学校での生徒の様子を保護者や地域の方々に理解してもらえるよう取り組んでいく。	<学校運営について> ・学校開放、地域との連携を進め、地域とともにある学校づくりに取り組んでほしい。 ・地域の方々が気軽に学校に足が運べるような仕組み作りをすすめてもらいたい。 ・さらに地域、保護者との良好な関係を構築して行ってほしい。 ・先生方の負担も大きいのが、健康に留意して明るく教育活動をすすめていただきたい。教師が元気なのが一番である。 ・引き続き学校運営協議会としても具体的に協力できることを考えていきたい。
		学校運営協議会活動の充実	B	・学校運営協議会と協働して講師の選定など豊かな体験活動を実施することができた。さらに日常的に協働する体制を構築していく。	
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	・「共創」の取組は、本校の基本方針であり、新学習指導要領の基本指針とも合致しており、今後とも職員同士の意識を高め合い創意工夫して、生徒主体の教育活動を進めていくことができるよう取り組んでいく。	
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	・生徒の内面理解に基づいて教育相談を計画的に実施してきたが、より教師と生徒、保護者との良好な人間関係を構築し、生徒の内面的理解を深めていきたい。	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	B	・いじめアンケートを定期的に実施し生徒の変化をできるだけ早く発見し、対応できるようにS CやS SWと連携しながら生徒指導を行った。 ・不登校・生徒指導部会を定期的実施し、報・連・相の徹底を図り、組織全体で迅速で機動的に対応できる体制づくりを進めていった。	
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	C	・自治協と協働で避難訓練、防災学習を実施できた。 ・阪神淡路大震災や東日本大震災が起きた日には追悼行事を行うなど防災教育や人権教育を進めることができた。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	A	・南但馬警察署に協力のもと、実践的な防犯訓練が実施できた。 ・マニュアルの確認を行ったが、課題を残したまま見直しまで至らなかった。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	B	・教育支援委員会やケース会議を定期的に行うことができた。そのため、個に応じた指導について、全教職員が共通理解を持って取り組むことができた。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を効果的な活用を進めていく。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	B	・市の対処方針に基づき、安心・安全を最優先とした教育活動を推進できた。	
あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	B	・本年度も内容の見直しを行い実施できた。今後も随時プログラムの見直しを図り、地域愛を育てる体験活動を創意工夫し実施していく。		
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点を立った授業づくりのUD化推進	B	・大型提示装置が普通教室や特別教室など、全教室に配置された。そのため、各教員がICTを活用するなど授業のUD化に積極的に取り組めた。	<教育課程> ・生徒たちが落ちつきで学習に取り組み体制づくりを進めてもらいたい。 ・ICTを効果的に活用して、子どもたちすべてにわかりやすい授業を進めてほしい。 ・今後も生徒が「学校が楽しい」と思えるように子どもたちが生き生きとした授業の実現に力を入れてほしい。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	C	・家庭学習の充実重点を置き、デジタルドテックDAYをすすめ、チャレンジ学習のほか、ステップアップ学習など個に応じた家庭学習のあり方をすすめていったが、成果として向上できなかった。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	・道徳の近畿大会での実践発表もあり、主に問い返しについて研究を進め、生徒の思考力を高めることができた。道徳の評価についてどう工夫改善を図ってきたい。	
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B	・総合的な学習の時間や各教科で、効果的な情報活用能力の向上を推進していく。	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	A	・SNS関係のトラブルなど多くあったが、本人や保護者からの相談、アンケート等により対応することができた。今後も、人権教育の観点から保護者と協力しながら指導を継続していくことが必要である。 ・今年度PTAと連携しサイバー犯罪防止の講演会等を実施した。	<課題教育> ・トライやる・ウィークなど、体験活動は生徒にとって有用な活動なので、工夫をしながら進めてほしい。支援を要する生徒の対応が難しいようであるが、丁寧な支援で充実感を持たせてやってほしい。 ・今後もキャリア教育を中学校3年間で継続で指導をおこなってほしい。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	B	・事前指導や事後指導などの充実を図り、生徒にとって有意義な活動になるよう行った。	
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	B	・食育の推進については、献立等を活用して、地産地消やバランスのとれた食事について理解を深めた。	
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	A	・キャリア教育については、各学年で講師を招へいし実施することができた。	
その他	職場環境の向上について	B	・ノー部活デーやノー会議デーが定着し、職員の意識も向上する中で勤務時間の適正化が進んだと考える。音声ガイダンスによる電話対応の導入や行事の精選など今後も業務改善を進めていく。		